

講義室に併設した大規模なラーニング・commons

今出川キャンパス 良心館「ラーニング・commons」



ラーニング・commons入口からすぐ目に入るプレゼンテーションコート 企画に合わせて様々なセッティングが可能

【ポイント】

大空間を活かした様々な仕掛け

講義室との位置関係に配慮した配置

- 講義前後の予習・復習等の学生の動線を考慮し、北側に講義室やゼミ演習室、南側に研究室、地階に福利厚生施設を持つ良心館の建物中央に配置。

相互刺激とコミュニケーションを誘発する「学びの見える化」

- プレゼンテーションコートを中心に多様な活動を誘発する 2階、より集中してグループワークを行うためのエリアを設けた 3階、合せて約 2,550 m²の大空間を構成。
- 活動が相互に見えるよう、エリアごとの間仕切りはほとんど設けていない。また、建物の外部・内部からラーニング・commons内の活動の様子が見えるよう構成。

学びの技術を体得するための人的支援

- 3階：アカデミックサポートエリアでは、実践的なアカデミックスキル（探求・調査能力）の育成をサポート。学習相談やレポート作成指導等を実施。
- 映像の加工・編集等のデジタル技術を学ぶことができるよう、専属スタッフが常駐する編集スタジオを整備。



2階 ファミリーレストラン風のソファが人気のインフォダイナー 壁一面が投影しながら書き込むこともできるホワイトボードとなっている



3階 鳥丸通りに面したグループスタディルーム 2部屋、3部屋とつなげて利用することもできる

整備による効果

平均利用者数 3,000 名

- 開設以降平日で平均して 3,000 名が利用している。
- 学年別では 1 年生の利用が最も多い。
- 大空間の中で多くの学生が学習に向かう様子を互いに見渡せることで、学習意欲の向上につながる。

高頻度利用者ほど、成果を自認

- アンケート調査結果より、ラーニング・コモンズを高頻度で利用する学生ほど、「効果的に学ぶ技能」や「授業内容について理解」が高まっていると感じている。
- 上記の理由として、高頻度利用者がラーニング・コモンズ内にある施設および人的支援を活用していることが考えられる。

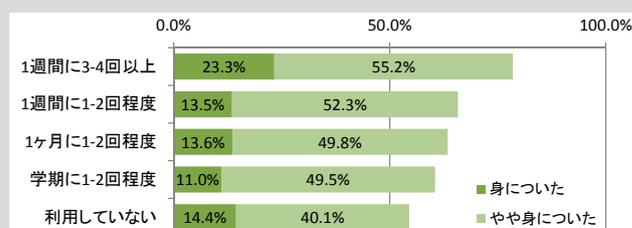
FD 活動の推進

- アカデミックサポートエリアへ寄せられた質問を集約し、学生が学びのどこで困難を感じているのか、知識・技術面でどこにニーズがあるのか等を学習支援検討部会にて委員を務める各学部教員へフィードバックしている。

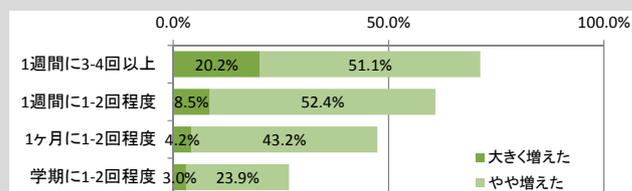
学年による学びの違い

1 年生	大学における学びの基礎として主にレポートの書き方等を学ぶ
2、3 年生	ゼミや自主勉強等のグループ活動
4 年生	卒論執筆における学習相談 リピーターとして複数回利用する傾向

ラーニング・コモンズ利用頻度別 効果的に学ぶ技能



ラーニング・コモンズ利用頻度別 授業内容についての理解



出典：「ラーニング・コモンズが学生にもたらす学習成果」大学教育学会第 37 回大会報告資料より

整備の背景・目的

- キャンパス再編前から、PBL（Project Based Learning）教育プログラム等が積極展開されていた。
- キャンパス再編計画として、京田辺、今出川校地に分散されていた文系学部キャンパスを統合し、今出川キャンパスとして整備することとなり、「主体的で多様な学びの体験」を保証する環境、PBL やアクティブラーニングにおける授業外学習のための環境整備の検討が併せて進められることとなった。

更なる展開

更に詳細な成果分析

- 新たな学びの展開・開発を考える「仕掛け」「実験室」として、利用実態や学習成果についての分析・評価が積極的に行われている。
- 今後、アンケート調査に加え、既に実施しているヒアリング等の定性的な調査データを重ね合わせた多角的な分析を検討している。
- また、学生の主観による調査に加えて直接評価（科目試験、ルーブリック、成績（GPA：※1）等）のデータ分析を行うことも検討している。

評価手法の確立

- 詳細な分析を進め、数年のうちに評価手法を確立し、以降は経年の推移分析に入ることや、学内教学 IR（※2）へのつながりをもたせていくことを目指している。

（※1）GPA（Grade Point Average）：

客観的な成績評価を行うため、授業科目ごとに 0~4 などのポイントを付した上で、学生ごとの成績の平均を算出すること

（※2）IR（インスティテューショナル・リサーチ）：

一般に、教育、研究、財務等に関する大学の活動についてのデータを収集・分析し、大学の意思決定を支援するための調査研究を指す